農技セ第 5516 号
令和７年９月２日

各関係機関長　殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長
（　公　印　省　略　）

令和７年度農作物病害虫発生予察情報について

令和７年度農作物病害虫発生予報第９号を発表したので送付します。

令和７年度農作物病害虫発生予報第９号

令和７年９月２日
徳　　島　　県

Ⅰ.普通作物

普通期水稲

穂いもち

1)予報内容

発生量　　平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)８月第５・６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 33.3%と平年(18.9%)に比べてやや高いが、発病穂率は 0.1%と、平年(0.2%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)出穂後曇雨天が続いた場合は、穂揃期に防除を行う。

紋枯病

1)予報内容

発生量　　平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)８月第５・６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 52.4%、発病度が 4.7 と、平年(60.1%、4.1)並の発生である。

(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)発生状況は圃場によって異なるので、圃場を見回り、病斑が第３葉鞘まで達している場合は、早急に防除を実施する。

トビイロウンカ

1)予報内容

発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1) ８月第５・６半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 11.8%、株当たり寄生虫数が 0.11 頭)。
(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)圃場における発生状況を早期に確認し、１株当たりの成幼虫数が１頭以上の場合は薬剤防除を行う。
(2)本虫は株元に生息しているので、薬剤が株元に十分到達するように丁寧に散布する。
(3)防除時期に降雨が続く場合であっても、降雨の合間に薬剤防除を行う。

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ等)

1)予報内容
発生量　　平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠
(1) ８月第５・６半旬の水田における生息調査(１地点当たり捕虫網 20 回振り)では、21 地点のうち 9 地点で生息を確認した。捕獲地点率が 42.9%、地点当たりの捕獲虫数は 1.3 頭と、平年(47.7%、1.9 頭)並の発生である。
(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。
(2)薬剤散布については、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約２週間頃)の２回防除を行う。

Ⅱ.果樹

カキ

炭そ病

1)予報内容
発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠
(1) ８月第５・６半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
(2) ７月第６半旬に行った新梢における発病調査でも、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。
(3)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1) ９～11 月の降雨は果実の被害を助長するため、発病果が認められる場合は、薬剤による追加防除を行う。

フジコナカイガラムシ

1)予報内容
発生量　　平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠
(1) ８月第５・６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 33.3%と、平年(53.3%)並の発生であるが、寄生果率は 1.0%と、平年(2.9%)に比べてやや低い。
(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)密度の高い園では、２回以上の防除が必要である。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等)

1)予報内容

発生量　　平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)８月第５・６半旬のカキにおける巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 18.3%、被害果率が 0.9%)。

(2)８月の予察灯調査における誘殺数は、勝浦町では、ツヤアオカメムシは第１半旬から第４半旬まで平年に比べてやや少なく推移したが、第５半旬では平年並となった。チャバネアオカメムシは、第５半旬まで平年に比べてやや少なく推移した。上板町では、各種カメムシとも、平年に比べてやや少なく推移した(表１)。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2025年	2024年	平年	2025年	2024年	平年
8	1	24	47	73	0	104	12
	2	21	13	80	2	74	22
	3	23	14	104	0	65	27
	4	41	9	94	1	28	22
	5	66	7	59	10	14	18
	6		15	52		33	24
9	1		7	36		8	15
	2		14	62		19	20

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2025年	2024年	平年	2025年	2024年	平年
8	1	26	368	120	0	301	31
	2	23	265	123	4	250	38
	3	69	188	118	12	397	48
	4	84	182	163	15	412	69
	5	89	140	156	37	424	97
	6		115	145		135	68
9	1		82	96		77	67
	2		114	167		100	56

表１　果樹カメムシ類の予察灯による誘殺数推移

(3)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。

(2)夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3)移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ.野菜

夏秋ナス

うどんこ病

1)予報内容

発生量　　平年より少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)８月第５・６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 12.5%、発病葉率が 0.3%と、平年(47.8%、4.8%)に比べて低い。

(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量　　平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1) ８月第５・６半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 23.5%、１葉あたり寄生虫数が 0.0 頭)。
(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1)予報内容
発生量　　平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2)予報の根拠
(1) ８月第５・６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 50.0%と、平年(42.7%)並の発生であるが、寄生葉率は 8.4%と、平年(3.3%)に比べて高い。
(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
(2)葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1)予報内容
発生量　　平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠
(1) ８月第５・６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 37.5%と、平年(33.3%)並の発生であるが、寄生葉率は 1.4%と、平年(0.8%)に比べてやや高い。なお、被害果実は認めていない(平年同時期は、被害果実の発生圃場率が 11.2%、被害果率が 0.3%)。
(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

秋冬ネギ

ネギアザミウマ

1)予報内容
発生量　　平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠
(1) ８月第６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 77.8%、被害度は 4.3 と、平年(53.3%、2.2)に比べてやや高い。
(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項
(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

シロイチモジヨトウ*(令和７年８月５日付けで注意報発令)*

1)予報内容
発生量　　平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)８月第６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 44.4%と、平年(61.7%)並の発生であるが、寄生株率は 1.1%と、平年(5.6%)に比べて低い。

(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)次世代の発生を抑制するためにも、被害を受けた植物残渣は圃場に放置せずに、確実に処分する。

(2)幼虫の齢期が進み、葉の内部に潜むようになると、薬剤による防除効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

(3)ネギの集団栽培地帯においては、フェロモン剤による防除が効果的であるので、適切に使用する。

(4)フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後３か月程度で低下してくるので、早めに交換する。

ネギハモグリバエ

1)予報内容

発生量　　平年より少なく(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)８月第６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 11.1%、被害度が 0.1 と、平年(53.3%、5.0)に比べて低い。

(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

冬春イチゴ（育苗期）

炭そ病

1)予報内容

発生量　　平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)８月第５半旬の巡回調査では、発生圃場率が 23.1%と、平年(21.6%)並の発生であるが、発病株率は 0.1%と、平年(1.3%)に比べて低い。

(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)台風の通過が予想される場合は、予めネットで苗を覆うなど物理的な傷みを防ぎ、通過後は必ず薬剤で防除する。

ハダニ類*(令和７年７月 22 日付けで注意報発令)*

1)予報内容

発生量　　平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)８月第５半旬の巡回調査では、発生圃場率が 38.5%、寄生株率が 6.0%と、平年(40.5%、5.7%)並の発生である。

(2)高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

野菜共通

ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生量　　平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) ８月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、平年に比べてやや低く推移している(図１)。

(2) 高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

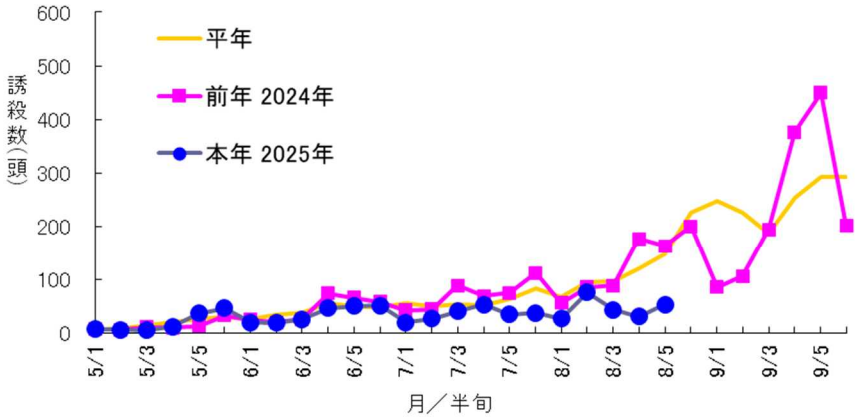

図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

＊徳島市・石井町・阿波市・吉野川市・東みよし町・三好市の9地点平均

シロイチモジヨトウ ***(秋冬ネギでは令和７年８月５日付けで注意報発令)***

1) 予報内容

発生量　　平年より多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

(1) ８月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、８月第１半旬から第５半旬まで 1,953 頭と、平年(763 頭)の約 2.6 倍誘殺された(図２)。

(2) ８月第６半旬の秋冬ネギにおける巡回調査では、発生圃場率が 44.4%と、平年(61.7%)並の発生であるが、寄生株率は 1.1%と、平年(5.6%)に比べて低い。

(3) 高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

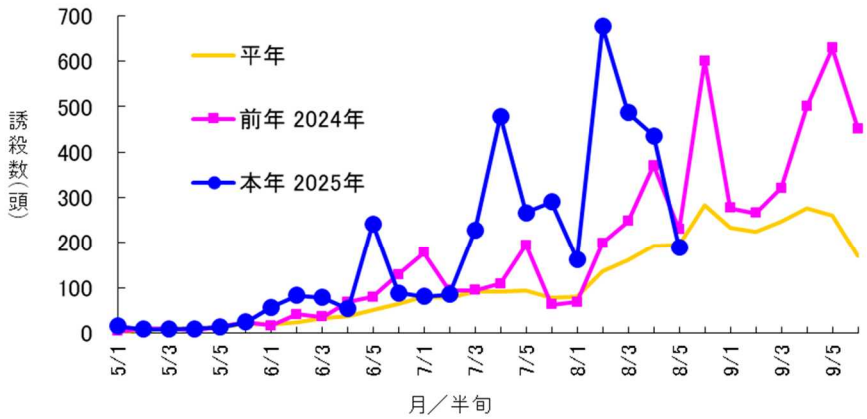

図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(野菜圃場)

＊徳島市・石井町・阿波市・吉野川市の7地点平均

オオタバコガ *(令和７年５月 15 日付けで注意報発令)*

1) 予報内容

発生量　　平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) ８月のフェロモントラップへの誘殺虫数は、８月第１半旬から第５半旬まで 224 頭と、平年(135 頭)の約 1.7 倍誘殺された(図３)。

(2) ８月第５・６半旬の夏秋ナスにおける巡回調査では、産下卵を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 25.5%、100 葉当たりの産下卵率が 0.4%)。また、被害果実も認めていない(平年同時期は、被害果実の発生圃場率が 9.6%、被害果率が 0.2%)。

(3) 高松地方気象台が８月 28 日に発表した１か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並で、日照時間は平年並か多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

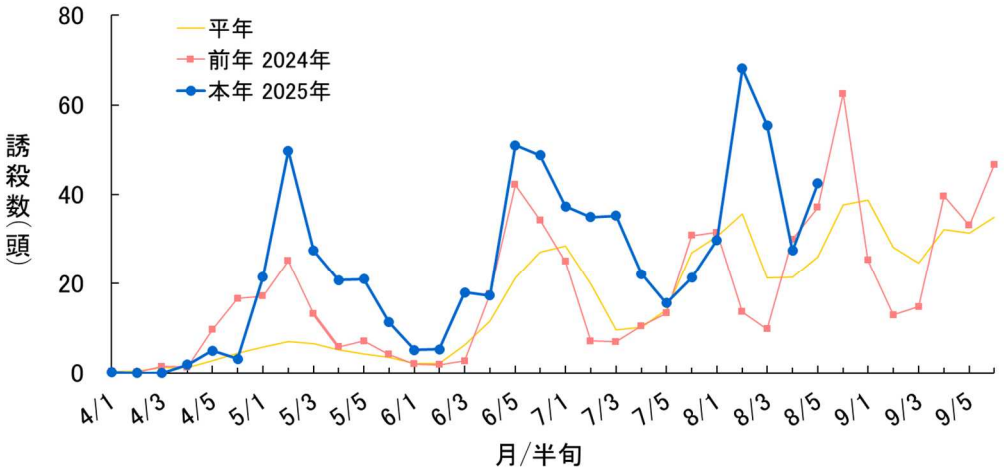

図３　オオタバコガ　フェロモントラップ誘殺数推移

*阿波市・三好市・東みよし町・石井町の6地点平均

Ⅳ. その他

1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。

2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

3) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照する。

発生量の表示

発生程度：甚＞多＞中＞少＞無

発 生 量：多い＞やや多い＞並＞やや少ない＞少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

ＵＲＬ：　*https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosho/*

○　病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。